

令和8年度 入園のご案内



学校法人 麻生学園しもやまと幼稚園

〒819-0052 福岡市西区下山門4丁目16-5 TEL092-891-7421

本学園 建学の精神



麻生学園創立者、初代理事長、初代学長、教育学博士 麻生 繁樹 書

「至心」とはまごころのことです。

すべての物（人）に慈悲、慈愛の心をもって接するという教え

職員一同、建学の精神を受け継ぎ、誠心誠意、お子様の教育に努めております。

「育ての心」序より(倉橋 惣三選集より)

自ら育つものを育てせようとする心。それが育ての心である。

世にこんな楽しい心があろうか。それは明るい世界である。

温かい世界である。育つものと育てるものとが、互いの結びつきに於て相楽しんでいる心である。

育ての心。そこには何の強要もない。無理もない。育つものの偉きな力を信頼し、敬重してその発展の途に遵うて(したごうて)発達を遂げしめようとする。役目でもなく、義務でもなく、誰の心にも動く真情である。

しかも、この真情が最も深く動くのは親である。次いで幼き子等の教育者である。

そこには抱く我が子の成育がある。

日々に相触る子等の生活がある。

斯うも自ら育とうとするものを前にして、育てずしてはいられなくなる心、それが親と教育者の最も貴い育ての心である。

それにしても、育ての心は相手を育てるばかりではない。

それによって自分も育てられてゆくのである。我が子を育てて自ら育つ親。

子等の心を育てて自らの心も育つ教育者。

育ての心は子どものためばかりではない。親と教育者とを育てる心である。

「育ての心」より～小さき太陽

よろこびの人は、子どものための小さき太陽である。明るさを頒ち、温かみを伝え、生命を力づけ、生長を育てる。見よ、その傍らに立つ子どもらの、熙々として輝き葉映ゆるを。なごやかなる生の幸福感を受け充溢しているを。〈中略〉希わくは、子どもらの為に小さき太陽たらんことを。

この文章の中の小さき太陽とは、保育者のことです。『子どもらにとっての希望となるような、太陽のような存在であってほしい』という願いが込められています。私たち職員は、いつも誰にでも平等に照らしてくれるお日様のように、惜しみない愛情を子どもたちに注ぎ、生きる力の根っこを育て見守る存在でありたいと思っています。

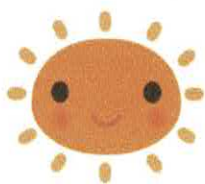
※倉橋 惣三・・・1882～1955 日本の幼稚園保育の指導的立場で活動し続け日本

のフレーベルと言われた「日本幼稚園協会」の創設者

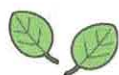
育ての心を持ち、一緒に相楽しまししょう。

本園の教育目標

- ・土の中で小さな根っこは大きく根を張り (幼児期)
- ・やがて芽を出し大きな幹となり (児童期)
- ・枝葉を広げ咲かせ (青少年期)
- ・やがては立派な実をみのらせる (社会人)



望ましい人間形成



幼児教育はしっかりとした根っこを育てます

①基本的生活習慣を身につける

- ・物を大切にする
- ・約束や決まりを守る
- ・人に親切にする
- ・挨拶をする
- ・あとかたづけ
- ・衣服の着脱

- ・責任感
- ・自主性
- ・自省心
- ・協調性

②情緒の安定

- ・子どもらしさ
- ・やさしさ
- ・同情心
- ・がまん強さ
- ・気力
- ・明るさ
- ・落ち着き
- ・素直さ
- ・いとおしさ

- ・情 操
- ・愛 情
- ・慈 愛

③道徳性の芽生え

- ・助け合う
- ・公共物を大切にする
- ・譲り合う
- ・自分の物と人の物との区別
- ・人に親切にする
- ・感謝する

- ・自主性
- ・責任感
- ・根気強さ
- ・自省心
- ・向上心
- ・公正さ
- ・指導性
- ・協調性
- ・同情心
- ・公共心
- ・積極性
- ・自立心

④知的発達の芽生え

- ・意欲、意志
- ・知識
- ・やる気(根気強さ)
- ・驚き
- ・見たり、聞いたり、試したり、扱ったり

- ・積極性
- ・創造力
- ・工夫力
- ・記憶力
- ・行動力
- ・向上心
- ・指導性
- ・自立心

⑤土づくり (家庭・社会・幼稚園)

- ・しっかりとした根っこが大きく育つよう、家庭と幼稚園が手を取り合って協力しましょう。

しもやまと幼稚園の概要 1

◎本園は、昭和 51 年 4 月に麻生繁樹初代理事長によって創立されました。

学校法人麻生学園は、建学の精神に基づき人づくりの学園として、幼児教育一筋 60 年を超える歴史があります。福岡には、麻生学園グループの幼稚園が 9 園あり幼児教育に力を注いでいます。

5,600 名程の卒園生を出し、親子二代で通園していただいていることが大きな喜びです。

しもやまと幼稚園の周辺は都市高速の開通姪浜駅や、今宿駅辺りの土地開発による都会的な空間と十郎川や生の松原海岸、小戸公園などの自然豊かな環境に恵まれています。平成 23 年 3 月に園舎が改築され、耐震強度や太陽光発電を取り入れた安心・安全な施設で、子ども達が楽しい園生活を送っています。

しもやまと幼稚園の概要 2

- 1、本園は学校教育法第 1 条に基づくものであり、幼、小、中、高、大学と系統教育の一環をなす幼稚園(学校)です。
- 2、本園は幼児の心身の調和的な発達の特性を培い、個性の芽生えを助長し、豊かな感性と慈愛の精神を養い、心と体の健全な発達に重点を置く幼児教育の実践の場です。
- 3、幼児の心身の発達とその特性に応じた生活を展開するに必要な施設・設備も整い、閑静で環境に恵まれた幼稚園です。
- 4、「教育は人なり」と言われるように、本園はすぐれた教師により、常に絶えざる研究と実践が行われ、愛と感謝の教育理念に基づいた教育を行っています。
- 5、本園の教育課程は幼児の心身の調和的な発達の実情を考慮すると共に、家庭及び地域の実態や特性を加味したものであり、指導方法としては年齢別クラス割りの指導を主としていますが時には異年齢クラス編成による縦割り保育も行っています。
- 6、本園は 2 年、3 年、4 年を通した教育計画に基づき、年長(青組)、年中(赤組)、年少(桃組)、満 3 歳児(たんぼぼ組)を主体とした教育を行っています。
- 7、園休日は、土、日曜、祝日、(園行事を行う月もあります)その他、夏、冬、春期の休み、及び園で決めた日となっています。毎月第 2・4 水曜日は午前保育(11:30 降園)です。
- 8、本園は大学・短期大学の教育実習生を受け入れており、学生と園児の活気ある触れ合いの教育実習の現場でもあります。
- 9、私立の進学校として「麻生学園小学校」があります。麻生学園小学校は学校法人麻生学園及び麻生文教学園の麻生学園グループの小学校です。受験をご希望の方は園長推薦ができますので、お申し出ください。

幼稚園はどんなところ？

幼稚園は子どもがはじめて出会う学校です。

学校教育のスタートは幼稚園から

○「学校」というと小学校からと思いませんか。幼稚園も学校教育法に基づく「学校」です。
3歳から小学校入学前までの子どもは、全国どこでも共通の教育課程に基づく教育が受けられます。

○学校教育法第1条（文部科学省）

「この法律で、学校とは、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学及び高等専門学校とする。」と、学校教育法・第1条に規定されています。
幼稚園は、学校教育法に基づく幼児教育を行う学校です。従って、管轄は文部科学省です。

「遊び」は重要な学習です

○幼稚園は、遊びを大切にした教育を行っています。
この時期に思い切り遊ぶことで、その後の学びや創造性が豊かになるといわれています。
○このため、幼稚園では、小学校以降の教育と異なり、教科書を使わず、「遊び」中心の活動を行っています。これらの「遊び」は、「国語」や「算数」などと同じように子どもの将来にとって重要な学習なのです。

小学校以降の学習の基盤は幼稚園で作られます

○幼稚園の「遊び」と小学校の「国語」や「算数」などは、一見何のつながりもないように見えるかもしれませんが、しかし、子どもは、幼稚園で様々な遊びを通して、うまく人とかわれるようになったり、言葉が豊かになったり、自然の美しさや不思議さなどに気付いたりすることで、小学校以降の学習の基盤をつくっているのです。

幼稚園の目的

◎学校教育法第二十二條

幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的としています。

幼稚園教育の目標

◎学校教育法第二十三條

幼稚園における教育は、前条に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとします。

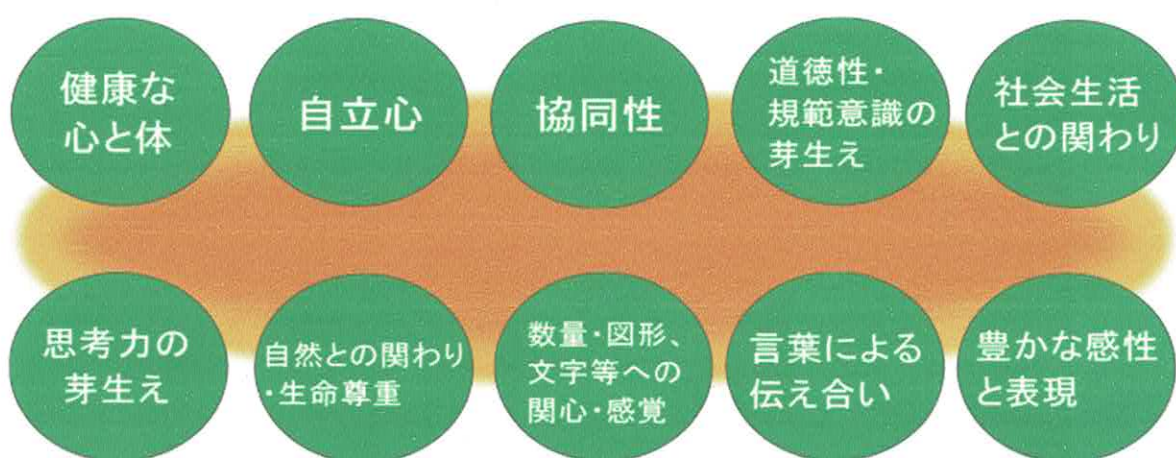
1. 健康、安全で幸福な生活のために必要な基本的な習慣を養い、身体諸機能の調和的発達を図ること。
2. 集団生活を通じて、喜んでこれに参加する態度を養うとともに家族や身近な人への信頼感を深め、自主、自律及び協同の精神並びに規範意識の芽生えを養うこと。
3. 身近な社会生活、生命及び自然に対する興味を養い、それらに対する正しい理解と態度及び思考力の芽生えを養うこと。
4. 日常の会話や、絵本、童話等に親しむことを通じて、言葉の使い方を正しく導くとともに、相手の話を理解しようとする態度を養うこと。
5. 音楽、身体による表現、造形等に親しむことを通じて、豊かな感性と表現力の芽生えを養うこと。

幼稚園教育要領

(平成29年3月告示 平成30年4月より施行)

小学校の「スタートカリキュラム」につなげて幼児期の教育は、教科を中心とする小学校以上の教育と違って、遊びを中心とした生活を通じて、生涯にわたる人格形成の基礎を培うことが基本です。さまざまな体験を積み重ねるなかで、お互いを関連させながら、徐々に育むこととしています。そこで、5領域を維持しつつも、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として、以下の事項を示しています。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化(整理イメージ)



幼稚園教育要領（5領域）

5領域は、子どもの発達を「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」という5つの側面から捉えたものです。

1. 健康・・・健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。
2. 人間関係・・・他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う。
3. 環境・・・周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。
4. 言葉・・・経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。
5. 表現・・・感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

年間目標とねらい



1 学期
適応の時期

2 学期
発展の時期

3 学期
充実の時期



★満3歳児

- 新しい環境に親しみ、年上の友達や保育者に見守られている安心感を持ち好きな遊びを楽しむ。
- 基本的な生活習慣を身につけ、のびのびとした園生活を送る。

★3歳児

- 園生活の流れがわかり、身の回りの始末を自分でしようとする。
- 基本的な生活習慣が身につき、自信を持ってのびのびと行動する。
- 進んで異年齢の友達と関わり、信頼感や愛情を持って活動に取り組む。

★4歳児の年間目標

- 異年齢の友達と刺激を受け合い、思いやりや協調性を持って相手の気持ちを受容する。
- いろいろな遊びに興味を持ち、保育者や友だちとの関わりを広げる。
- 身近な環境に興味・関心を持ち、発見を楽しんだり、考えたりする。

★5歳児の年間目標

- 主体的に活動に取り組み、友だちを認め合ってグループ遊びが進められるようになる。
- 年長としての役割を自覚し、意欲的に活動する中で年下の友だちとのかわりを深め思いやりやいたわりの気持ちを持つ。
- 自然や身近な事象に興味・関心を持ち、好奇心や探究心を高めていく。
- 就学に向けて目標を持ち、自覚と自信を持って行動する。

☆お子様の発達、療育等に関してのご相談がある場合は、必ず入園前にご相談ください。